

日本感情心理学会 2015 年度第 1 回常任理事会・理事会 議事録

1. 日時 2015 年 6 月 12 日(金) 18:00-19:30
2. 会場 上智大学 9 号館 5 階 心理学科図書資料室 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 7-1
3. 出席者： 中村真、大平英樹、阿部恒之(常)、有光興記(常)、岩永誠(常)、佐藤健二(常)、澤田匡人(常)、湯川進太郎(常)、今田純雄、河野和明、戸梶亜紀彦、永房典之
欠席者： 内山伊知郎(常)*、石川隆行*、小川時洋*、北村英哉*、藤原裕弥*、余語真夫*、伊藤義徳* (*議長に委任 (常)常任理事)
監事： 谷口高士(欠席)、山岡淳(出席)

委員会メンバー

- ・倫理委員会(伊藤委員長、副理事長、編集委員長)
- ・学術プログラム委員会(湯川委員長、正副理事長、編集委員長、北村理事、永房第 23 回大会準備委員長、樋口準備委員)
- ・ES 編集部会(中村担当責任者、手塚副担当責任者、興津委員、澤田委員、石川委員)

・出席者数は、常任理事、および理事それぞれの総数の 3 分の 2 を超えており、理事会が成立していることが確認された。

理事長の挨拶 理事会当日の若手の会について、実りのある会であったとの報告があった。

報告事項

1. メール審議事項等について

以下の報告事項について、理事長より説明が合った。すべて審議済み事項で、質疑はなかった。

- (1)2014 年度大会(第 22 回大会(宇都宮大学))決算について
- (2)2015 年度(永房委員長)、および 2016 年度(湯川委員長)年次学術大会開催校の決定(理事会)
- (3)学会誌電子版一本化(印刷配布停止)の検討と決定(編集委員会執行部、執行部、理事会、総会)
- (4)学会誌論文投稿等に関する倫理的問題対応のための倫理関係 WG による検討(岩永常任理事・編集委員長、佐藤常任理事、戸梶理事、手塚編集委員、藤原 編集委員、伊藤編集委員)
- (5)上記 WG の検討を受けて、倫理委員会の設置(理事会)
- (6)新雑誌エモーション・スタディーズ(ES)発行の検討・決定、および関連規程等の策定(企画チーム、理事会、編集委員会)
- (7)ES 編集部会の設置(企画チーム、編集委員会、理事会)
- (8)学術プログラム委員会規程の策定と委員会の設置(湯川常任理事、執行部、理事会)
- (9)第 22 回大会発表賞について(中村理事長)
- (10)感情心理学研究 22 巻優秀論文賞について(岩永常任理事・編集委員長)
- (11)感情心理学研究 学術貢献賞について(岩永常任理事・編集委員長)
- (12)入退会者について

2. 編集委員会報告

岩永編集委員長より、23巻の編集状況について報告があった。

阿部常任理事より、紙媒体の機関購入数について質問があり、昨年度実績は35件で、オンデマンドで50部を刷ることを国際文献社と打ち合わせたことが中村理事長より報告された。

3. 第8回、および第9回感情心理学会セミナー報告（学術プログラム委員会[大平副理事長、北村理事]、有光事務局長）

4月17日（土曜日）に関西大学で北村理事を幹事として、「感情と無意識」をテーマに実施した。参加者は、50名を超え、半数以上が会員外であった（大平副理事長）。

6月5日（金曜日）に「心理療法、感情制御、神経科学、文化」をテーマにボストン大学のホフマン先生を講師に、セミナーを行った。参加者数は、38名であり、こちらも同志社大学の院生、学生を中心に会員外の参加が多かった（有光事務局長）。

4. WG 関連など報告

(1) 学会 HP の充実、整備（有光常任理事、澤田常任理事）

ニューズレターも含めて、新たに事務局と業務を分担する委員を推薦する旨を報告した。

(2) 2015 年度年次学術大会企画関係（学術プログラム委員会[永房委員長・樋口準備委員会]

準備が滞りなく行われていることが報告された。

(3) 「感情心理学ハンドブック（仮）」の出版（内山常任理事、澤田常任理事）

執筆者の選定などで滞っている状況である（澤田常任理事）あまり抱え込み過ぎず、分担して取り組んで進めてほしい（中村理事長）

(4) 広報活動に関する検討（広報 WG：阿部常任理事、今田理事、小川理事）

学会ロゴについて、動き出そうとしている。必ずしも広報関係の問題とは言えないかもしれないが、年次大会の開催時期が早いため、M1 の発表ができない。12 月という案も WG ででている。（阿部常任理事） ロゴについては、具体的な形にしていきたいので、執行部にも適宜相談して進めていただきたい。大会開催時期については、参加者、発表者にとって都合の良い時期にするのが良いと考えている。（中村理事長）

(5) 倫理委員会関係内規等の整備（倫理委員会）

伊藤理事より提出された規程案等が報告された。倫理違反が発覚した時の WG のメンバー選定について、検討事項が残っている（岩永編集委員長）

(6) エモーション・スタディーズ (ES) の編集（ES 編集部会）

昨年度の大会の企画を中心にした特集と第8回のセミナーの講師の論文を中心に掲載する号として作業を進めている。表紙、テキスト部分については、これから修正可能であるので、意見をお願いしたい（中村理事長(部会長)）。理事会でサンプルが提示された。また、大会でもサンプルを提示し、会員からの意見も募ることになった。今田理事から、電子媒体のみでの発行であるか質問があり、サンプルはオンデマンド印刷の例であり実際は PDF での発行で J-stage でのダウンロードとなる（中村理事長(部会長)）。

5. 会勢報告 中村理事長より 2015 年 5 月 19 日の最新の会勢は、正会員が 331 名、正会員（大学院生）が 92 名、学生会員が 7 名、名誉会員が 1 名、賛助会員が 1 名の合計 432 名であることが報告された。

6. その他 特になし

審議事項

1. 2014 年度決算について

(1) 決算案について 資料

(2) 監査報告 資料

理事長より、資料に基づき説明があった。監事を代表して山岡先生より適正に予算が執行されている旨、監査報告があった。

審議の結果、提案通り承認された。

2. 2015 年度予算について 理事長

資料に基づき、理事長より説明があった。

収入の部については、選挙費用の取り崩しが加わる以外は、昨年度実績で組まれている。機関誌の電子化のため、広告の収入が見込めなくなったため、雑収入については減少した。

支出の部については、国際文献から提示された 2015 年度の当初予算案は、感情心理学研究第 22 巻第 3 号の積み残し分、事務委託費、組版代の値上げ等で、大幅な赤字となったが、感情心理学研究のページ減、会議費、交通費等を見直し赤字枠を減らした予算案が提案され、審議の結果、提案通り承認された。

(中村理事長)

なお、提案に対して、感情心理学研究のページ数減となると、特集号の掲載が難しくなるという意見があった（岩永編集長）。

今後の財政健全化のための対応として、支出減のために学会誌印刷費について、相見積を取ることが決定された。また、感情心理学研究のページ削減に加えて、エモーション・スタディーズの休刊や隔年発行なども選択肢としては考えられるが、むしろ収入増によって対応したいという意見があり、承認された。

収入増については、年次大会の会計を学会予算に組み込むこと、非会員の審査料を値上げするなど、まずは理事会や編集委員会で対応できることに取り組むとともに、今後の消費税率アップへの対応を含めて、年会費の値上げの可能性を検討することなどについて、引き続き検討することが確認された。

3. 会費未納者について

未納者リストが配布され、関係者への納入のお願いを行うことが確認された。

4. 2017 年度以降の年次学術大会開催校について

未決定であり、学会で大会をサポートする体制を整える必要性が議論された。

5. その他

大会開催体制について

開催者が決まらない場合は、より組織的に大会をやっていくように、学会主催でやることを考えたい。

(中村理事長)

入会規程について

5月15日付けの入会希望者1名の申請内容に疑義があったことが報告された。入会時に推薦を必要とするなど、入会規程の改正が必要という意見があった。問題があった場合は、除名などの対応を取るために、会則の改訂も含めて検討すべきという意見があった。

学術プログラム委員会

湯川常任理事より、第24回大会を2016年6月18日、19日（筑波大学筑波キャンパス大学会館）、6月17日に若手企画を行うことが報告された。また、理事会選出の2名の委員として、設置後間もない委員会であることから、昨年度に引き続き湯川常任理事と、セミナーを担当した有光事務局長が来年度の委員に推薦され、了承された。

以上